

【寄稿】 奥田八二日記翻刻雑感

坂井, 智明
元福岡市職労執行委員

<https://doi.org/10.15017/4372246>

出版情報：奥田八二日記研究会会報. 6, pp.348-356, 2021-03-31. 奥田八二日記研究会(九州大学大学文
書館内)
バージョン：
権利関係：

【寄稿】

奥田八二日記翻刻雑感

坂井 智明

エピソード 1

2019年の9月でした。福留久大九州大学名誉教授からメールがありました。内容は、10月18日に古賀市生涯学習センターで開催される「国際反戦デーのつどい」にて板付米軍基地問題で講演を依頼されているとのことで、私に声をかけられたものでした。

板付の米軍基地といえば、1968年6月2日にファントムが九大箱崎キャンパスに墜落したことは有名な話です。当時の学生や院生、教職員、生協職員などが中心となって1998年に30周年、2007年に40周年プレ、2008年に40周年、2017年に50周年プレ、そして2018年には50周年のシンポジウムが開催されました。

私は50周年のプレシンポから呼びかけ人に参加し、「あの日 あの時 この時代—ファントム墜落50周年・さよなら九州大学箱崎キャンパス」と題した記念誌の編集委員を務めたのですが、福留氏からは「1968年から半世紀—東大と九大で記録する」と題する貴重な記録が寄せられました。福留氏との最初の出会いは、私が大学1年生のときに遡るのですが、そのきっかけは、記念誌に寄稿した私の「ファントム墜落時は中学生」に出てきます。

さて「国際反戦デーのつどい」は、県教組、高教組、社民党、原水禁、部落解放同盟、自治労などの粕屋・宗像の地域組織で構成する「粕屋・宗像の平和を考える会」の主催だったのですが、私はNHK福岡が作成したテレビ番組「福岡空港の半世紀」のDVDを利用して解説を行い、福留氏の講演の前座を務めました。

閉会后、参加者の何人かから「奥田八二日記研究会」への誘いの声がかかったのですが、これが研究会との出会いの始まりでした。さっそく会長の福留氏から1月21日（奥田八二氏の命日）の葦水忌の集いの案内がありました。

その葦水忌において、主宰者である森山英明氏に初めてお会いしたのですが、東日本大震災以降、毎月11日に天神中央公園の芝生広場で実施されている雑草取りのお話を伺い、さっそく翌月の2月11日から現在まで毎月参加しているところです。

研究会では、1984年の日記の翻刻作業を担当することになりましたが、正確には天野光義氏が手掛けられていたのを森山氏の仲介で引き継いだものです。実は天野氏と私は郷里が同じ篠栗であり、お互い組合運動で知り合った仲間でもありました。

天野氏が県職労本部の専従役員をされていた時、私も福岡市職労の専従執行委員をして

いたのですが、1995年は県職労結成50周年でした。その記念誌を発刊するというので、天野氏から寄稿依頼が私にありました。

当時は奥田県政3期目の終り頃だったのですが、私としては奥田氏の思い出として、九大教養部時代に授業を受けたこと、学生会館の管理問題の交渉でやり合った（奥田氏は教養部長に就任されたばかりであったが、かつては学生部長として全学封鎖解除に踏み切った強硬派として学生運動の先輩の間では有名であった）こと、それがエスカレートしてついには奥田氏が「社会主義協会太田派のイデオログであり、その拠点が県職労である」と決めつけ県庁や県税事務所にビラ配布（内容は、奥田氏が「学生運動を弾圧している」というもの）に行ったこと、さらには自分が1990年から市職労の執行委員になり、1991年4月の奥田県政3期目の選挙において市職労は支持を決定し、市内の団地各所に奥田知事支持のビラ配布に奔走したことなどを寄稿しました。つまり学生時代は奥田氏を敵に見立てていたのですが、県知事選に出馬されてからは応援する側に回るという時の流れを書いたものでした（この3選時の選挙ではこれまでの社共共闘体制が崩れたのですが、市職労の委員長と書記長が県本部に赴き、当時の橋口甚之助委員長に「社共共闘体制の構築に自治労として取り組むように」と要請に行ったことを覚えています）。

このような縁があった天野氏から偶然にも奥田日記の翻刻作業を引き継ぐことになったのですが、天野氏は闘病しながらも、故郷のコミュニティ紙である「篠栗新聞」の編集をされ、2019年には「第17回福岡県市民教育賞」を受賞されました。しかし、残念ながら2021年1月2日に亡くられました。この会報を墓前に供え、天野氏の功績を偲びたいと思います。

エピソード2

1984年の翻刻を担当したのですが、その作業を通じていちばん痛感したのは、奥田氏が遠藤政夫氏を非常に嫌悪していたことです。

遠藤氏のことは1月22日、25日、3月3日、6日、4月19日、5月14日、21日、6月11日、7月2日、4日、12日、16日、22日、8月21日、28日、10月9日、26日、30日、11月29日、12月7日、13日、19日、26日、30日というように、何と日数では合計24日も出てくるのです。「遠藤」という字は56回も出てきます。

奥田氏が初めて県知事選で当選したのは1983年4月です。よって1984年といえば県知事選で負けた自民党陣営の奥田知事に対する風当たりが最も強い時期であり、特に自民党県連会長であった遠藤参議院議員の嫌味は相当なものだったようです。労働省の先輩でもある亀井光氏を破っての当選だったので、その悔しさを奥田知事にぶつけていたとしか思えません。

以下、遠藤氏の嫌味とそれに対する奥田氏の悔しさの心情が吐露された日記の一部を紹介します。

<1月 22日>…朝食会で遠藤参議が福岡県は知事の指導が悪く他県にくらべ陳情に見劣りがあると指摘された…それほど亀井が敗れたのが残念で、それほど頭に長くこびりついているのだろうか。いい加減にしておけといたい。…

<7月 12日>…「鶴崎は陳情できずに出張して来ても、時間をつぶすため温泉につかりに行きよったが、あなたもその類か」といったような意味のあいさつを会館遠藤事務所に入った私にあびせたのであった…

<7月 22日>…私は早目に帰途につくため、主要人物に帰る旨宴の中であいさつしてまわったが、遠藤のところに来た時彼は「知事はもう少しまじめにやってくれよ」と私にいった。…こういう奴には絶対負けないぞ、いつか仕返しをしてやる、あちこち言いふらしてやると誓ったのであった。…

<10月 30日>…陳情に来た面々に囲まれて遠藤氏もご満悦だったようだ。みんな支持者ばかりのようだから、そういう中で彼は「私が県民の皆さんのために働きお役に立つことになれば、それは不本意ながら奥田知事の名をあげてやることになる」といった。そういう発言を彼は度々私の前でやる。…

実は私も1986年から仕事の関係で、河川改修事業の予算確保のための陳情活動の世話係をしていました。流域の首長さんに建設省に集合してもらい、河川局で陳情活動を行い、その後議員会館をまわり、地元選出の国会議員の部屋を訪問して陳情するのです。このとき、遠藤氏の部屋にも伺いましたが、たまたま本人が在室。総勢10市町の首長もしくはその代理の方が一堂にそろっているわけで、遠藤氏のご満悦でにこやかに対応されていました。もちろん奥田知事の悪口などは出ないし、世話係の私にも慰労の言葉をかけられるなど、結構良い人というイメージしかありませんでした。

ということもあり、今度は反対に遠藤氏が奥田知事をどう見ていたのか、というのに関心が向き、遠藤氏の著作を探してみました。

労働省現役の時代は、労働行政に関する著作がいくつもあるようです。しかし自叙伝なるものがなかなか見つからなかったのですが、やっと「五十年の回想」があることがわかりました。

ところが、調べてみると、この本を置いている図書館は国立国会図書館、厚生労働省図書館（東京都千代田区）、労働図書館（独立行政法人労働政策研究・研修機構/東京都練馬区）、岡山県立図書館にしかなく、福岡県内はもとより九州・山口の各県の図書館には無かったです。

そこでamazonを調べたら運よく中古本が見つかり、750円で購入（2020年3月28日）

しました。ちなみに2021年2月現在では7500円までに跳ね上がっています。私が購入したことで需要があると売り手が判断したのでしょうか？

それはさておき、「五十年の回想」に目をとおしましたが、関心は遠藤氏が奥田氏をどう見ていたかということです。しかし回想では、誕生から進学、兵役、労働省入省までの経緯が、そして労働省で関わった労働行政の表話や裏話が、人物名も明らかにして出てきます。そして終盤では労働事務次官の話があるものの退官し、現職の引退を引き継ぎ、1977（昭和52）年7月の参議院議員選挙（福岡地方区）に自民党公認で初当選。奥田氏は当時、教養部長であったときでした。

参議院議員になってからの話は、1983年（昭和58）年7月の再選後、1984（昭和59）年に社会労働委員長として男女雇用機会均等法改正の審議をしたこと、1986（昭和61）年に労働基準法改正を提案する労働省後輩にアドバイスしたことの2件のみです。

結局、奥田県政や奥田知事に対する記述は一切ありませんでした。福岡県のことについては、筑豊ハイツ（1973・昭和48年）、直方いこいの村（1977・昭和52年）、産業医科大（1978・昭和53年）、総合脊損センター（1979・昭和54年）、福岡勤労者福祉センター・サンパレス（1981・昭和56年）など、亀井知事時代に開設された労働省所管の施設のことばかりでした。

政治活動歴も記載されており、自由民主党としての履歴も記載されていますが、すべて党本部の役職ばかりであり、福岡県連の会長の履歴は一切記載されていません。本人にとって、自民党県連会長として奥田知事に對抗した記憶は思い出したくもないものだったのかもしれない。

<年表>

西暦（年号）	奥田八二	遠藤政夫
1920（大正9）	11月1日 兵庫県（現姫路市）にて田麿繁之助・はるの八男として誕生	
1923（大正12）		2月6日 現甘木市に7人兄弟の長男として出生（生家は酒造業）
1927（昭和2）	4月 曾左尋常高等小入学	
1929（昭和4）		4月 甘木尋常小入学
1933（昭和8）	3月 同小尋常科卒業 4月 同小高等科入学	
1935（昭和10）	1月 奥田初治・春雄と養子縁組、現相生市に移り、那波高等小に編入	4月 県立朝倉中学校入学

	3月 同小高等科卒業 4月 龍野中学校入学	
1939 (昭和 14)	3月 同中学校 4 年終了 4月 旧制姫路高等学校入学	3月 同校卒業 4月 県立福岡高等学校入学
1942 (昭和 17)	3月 旧制姫路高等学校卒業 4月 九州帝国大学法文学部経済科入学	3月 同校卒業 4月 東京帝国大学入学
1943 (昭和 18)	9月 九州帝国大学仮卒業 10月 奥田初治長女幸と結婚 12月 学徒動員で迫撃第三連隊 (福井県鯖江) に入隊	
1944 (昭和 19)		9月 東京帝国大学政治学科卒業 9月 佐世保軍需部
1945 (昭和 20)	12月 召集解除 (宮崎県で除隊)	2月 同軍需部鹿児島支部 (この時、妻となる美智子と知り合う) 12月 復員
1946 (昭和 21)	2月 九州大学大学院特別研究生 (社会政策専攻)	1月 雪乃里醸造合名会社入社
1948 (昭和 23)		1月 同社退社 2月 労働省入省 (職業安定局失業保険課) 4月係長、7月課長補佐 12月 美智子と結婚 (当時、亀井光元県知事は失業保険課長)
1948 (昭和 24)		7月 肺結核の治療のため帰福
1950 (昭和 25)	5月 九州大学助教授 (社会思想史担当)	(肺結核治療のため、入退院を繰り返す)
1951 (昭和 26)	5月 社会主義協会発足、会員として活動	2月 定員法改正で本省の席がなくなり、甘木公共職業安定所の所属 (休職扱い) に
1952 (昭和 27)		10月 本省 (職業安定局雇用安定課課長補佐) に復帰
1953 (昭和 28)		5月 労働基準局監督課課長補佐

		11月 中央労働基準監察監督官 (当時、亀井元知事は労働基準局長、その後、労政局長に)
1954(昭和29)	6月 社会主義協会九州支局設立、事務局長	8月 大阪府労働部職業安定課長 (大阪府に出向)
1956(昭和31)	6月 県政研究会発足	4月 労政局労働組合課課長補佐
1957(昭和32)		6月 大臣官房総務課課長補佐
1958(昭和33)		11月 総理府社会保障制度審議会事務局調査第二課長
1960(昭和35)		7月 同上調査第一課長 (亀井元知事は労働事務次官に)
1961(昭和36)		7月 職業訓練局指導課長
1962(昭和37)	7月 知事委嘱で筑豊産炭地の 実態調査し報告書作成、「黒い 羽根運動」をきっかけに社 会問題研究所発足	1月 職業安定局庶務課長 ※7月 亀井元知事、参議院議員 選挙(福岡地方区)で当選(自民 党)
1963(昭和38)		7月 職業安定局調整課長
1964(昭和39)	11月 九州大学教授(教養部)	
1965(昭和40)	4月 ソ連マルクス・レーニン 主義協会の招待でソ連、東ド イツ、チェコを視察	6月 労働基準局労災補償部管理 課長
1967(昭和42)	6月 社会主義協会が向坂派と 太田派に分裂	8月 労働基準局労災管理課長 ※4月 亀井県知事初当選
1968(昭和43)	6月 米軍機ファントム九大計 算機センターに墜落 10月 九大学生部長に就任	
1969(昭和44)	10月 九大全学封鎖解除	8月 職業安定局失業対策部長
1971(昭和46)		※4月 亀井県知事再選
1972(昭和47)		1月 職業訓練局長
1973(昭和48)	5月 九大教養部長に就任。78 年8月まで3期務める	7月 職業安定局長
1975(昭和50)		※4月 亀井県知事三選
1976(昭和51)	10月 福岡県評二十年史編集・ 執筆	12月 労働事務次官事務代理

1977 (昭和 52)		1月 労働省退官 7月 参議院議員(福岡地方区) 初当選 (自民党)
1979 (昭和 54)		※4月 亀井県知事四選
1982 (昭和 57)	12月 九大退官	
1983 (昭和 58)	4月 福岡県知事に就任	7月 参議院議員(福岡地方区) 再選 (自民党)
1987 (昭和 62)	4月 福岡県知事再選	
1989 (昭和 63)		※7月 参議院議員(福岡地方区) 落選 (自民党)
1991 (平成 3)	4月 福岡県知事三選	
1992 (平成 4)		※7月 参議院議員(福岡地方区) 落選 (無所属)
1995 (平成 7)	4月 福岡県知事を退任 4月 アクロス福岡完成、理事長に就任	10月20日「五十年の回想」発行 ※11月9日 死去(満72歳)
2001 (平成 13)	1月21日 多臓器不全で死去 ※満80歳	

1. 「奥田八二」の欄は、「奥田八二著 幾歳月～思い出の糸をたぐって～2014年1月21日 葦水忌実行委員会編」からの引用です。
2. 「遠藤政夫」の欄は「五十年の回想 著者 遠藤政夫 発行所 労働基準調査会 平成7年10月20日発行」からの引用です。
3. 表中の※は坂井智明が加筆したものです。

エピソード 3

森山英明氏に誘われ、毎月11日に天神中央公園の雑草取りに行っていることはエピソード1で記しましたが、私にとって最初の2020年2月11日のときです。作業が終わると森山氏から次のような相談がありました。

中央区輝国に奥田氏の旧宅があり、売りに出すもなかなか売れず、早い処分を希望される奥様の意向を汲み取って、仲介した宅建取引業者が購入してくれたとのこと。しかし、東側の隣接地が高台になっており、その傾斜地に擁壁はなく草木が茂ったままで、そこから雨水が流入して困ってあるとのことでした。

さっそく法務局にて地図(字図)を取り寄せ、10日後に森山氏と宅建取引業者(現在の所有者)に案内されて現地調査に行きました。旧宅は通称「陸軍墓地」よりもさらに南側に行った高台にありました。大学時代、友人の下宿がある陸軍墓地あたりまではよく行っていましたが、その先に奥田教授の自宅があったとは知りませんでした。しかし旧宅から真西の方向の樋井川の先に田島寮があったのですから、旧宅は徒歩通勤の範囲だったといえるでしょう。

さて現地調査の際は、東側隣接地の傾斜地で滑って転んだりしたものの、他の人の所有地であるため、結局これといった名案や解決策が浮かばず、その日は終わったのですが、旧宅のことは私の記憶に鮮明に残りました。

そして「奥田八二日記研究会会報第5号」の1992年の日記を見たときでした。何とこの東側の土地のことが書かれていたのです。

3月21日(土)

午餐会を催して

午後、秘書室関係者十人ほど招いて午餐会を行った。十人規模なら新調の二個のテーブルで二間使って会食が可能。雛飾りをしていて、それをしまう以前に催したいと思っていた。みゆき負傷につき、秘書室の女性たちが心配してくれたので、そのお礼の意味があった。料理はわが方で、和代が手伝ってくれて、手製である。席料も要らない催しである。高木、葉玉、原口、斎藤、山口らすでに秘書室を去った者も出席した。男性達は結構酒も飲み、カラオケマイクを握り歌って楽しい数時間をすごすことができた。前の家を利用できるので、こういう時効用を感ずる。伊藤さんが手離すときに、買うようすすめてくれ、迷うことなく四〇坪ほどの用地だが、買ってよかった。続き地は折あれば買っておくべきという原則があるようだが、よく判る。東側の今の梅林になっている部分は、ここに居を移した頃、六〇坪で一二〇万円といわれて、手が出なかったのだが、むしろ心が出なかったといっただけよい。方途は講じたのにと、くやまれてならない。

そうです。奥田氏本人が東側の土地を買い損ねたことをずっと悔やまれていたのです。ついでですが、この日の日記には「山口」さんが出てきます。実はこの山口さんと私は6学年も違うのですが、40年くらい前からの知人です。山口さんが学生時代、埋蔵文化財の発掘作業の市のアルバイトされていたとき、同期の友人を介して知り合いになりました。その後、山口さんは奥田知事2期目の秘書室で執務することになったのですが、たまにお会いしたとき、奥田知事の素顔の様子を伺ったものでした。

その後、山口さんは国際交流局主幹、新雇用開発課参事、70歳現役応援センター長、男女共同参画推進課長、新雇用開発課長、労働部次長、職員研修所長を歴任されましたが、奥田知事の意志を、そしてそれを引き継いだ県政において活かされているのではないかと思います。

います。なお2019年度末をもって県庁を定年退職され、現在は国立大学法人九州大学の常勤監事をされています。